

第 10 回県西地域活性化推進協議会 結果概要

(H31. 3. 18 13:30~14:30 於：神奈川県小田原合同庁舎 3階会議室)

○ 開会

○ 知事あいさつ

黒岩知事

本日はお忙しい中、県西地域活性化推進協議会にお集まりいただき、心から感謝申し上げます。

平成 26 年に立ち上げた「県西地域活性化プロジェクト」は、スタートから 5 年が経過した。

このプロジェクトのキーワードである「未病」は、この間、国内外に大きく広がりをみせ、国の「健康・医療戦略」だけでなく、インド政府との外交文書にも位置付けられるとともに、先月発表された経済協力開発機構 O E C D の報告書でも取り上げられた。

また、今年度を振り返ると、何と云っても、未病バレー「ビオトピア」がオープンを果たしたことである。

4 月のオープン以来、来場者数は、当初の年間目標である 20 万人を大幅に上回り、既に 49 万人を超えている。また、テレビや雑誌でも多数紹介されるなど、県西地域と未病改善のアピールに大きな効果を発揮している。

県では、このにぎわいを県西地域全体へと広げていくため、県西地域の「未病を改善する」拠点の連携による回遊促進にも積極的に取り組んできた。

ビオトピアを運営するブルックスさんにおいても、地元製品の掘り起こしを行い、ビオトピアでの販売に活用されるなど、地域活性化にも積極的に取り組まれている。

さらに、ブルックスさんからは、2021 年夏までに、温泉を用いた新しいフィットネス施設を整備する計画と伺っており、その後の宿泊施設も含めたフルオープンに向けて、着実に整備が進められることを大いに期待している。

そして、今後も国内外からより多くの方々にビオトピアに来ていただき、「未病」について理解を深めていただくとともに、その賑わいが県西地域全体に波及するよう、みなさまと一丸となって取り組んでいきたい。

また、来年度には国際シンポジウム「ME-BYO サミット神奈川 2019」を箱根で開催する予定であり、再び県西地域において未病に関する議論ができることを楽しみにしている。

本日は、今年度の取組状況と来年度の取組内容について、委員の皆様からのご報告をいただけるということで、協議会で情報を共有し、意見を交換していきたい。

限られた時間ではあるが、プロジェクトの更なる展開のために、忌憚のない議論をお願いしたい。

○ 「平成 30 年度の県西地域活性化プロジェクトの取組状況」及び「平成 31 年度の県西地域活性化プロジェクトの取組」について、市町、民間事業者及び事務局から説明*。

(※) 小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、
㈱ブルックスホールディングス及び事務局

○ 質疑・意見交換

慶応大学 渡辺教授

ビオトピアがオープンしたことで、各市町村との連携がさらに強まることを期待している。県西地域が未病の戦略的エリアとして一体化し、全体として盛り上がっていかなければならない。そのためにも、2020年の東京オリンピックへ向けて、観光客の誘致を目的とした英語での情報発信力の強化が必要である。県西地域活性化プロジェクトのホームページの英語版作成をお願いしたい。

また、本プロジェクトのキーワードである「未病」では、指標の一つとして医療費や介護費の抑制が挙げられる。高齢者ばかりではなく、婦人科がんが若齢化しており、また妊娠・出産を控える若い女性「未病女子」や子どもの健康を考える視点も重要である。

かながわ西湘農業協同組合 石塚常務理事

医食同源の観点から未病改善に取り組んでおり、なかでも県西地域産レモンのブランド化に力を入れている。去年はヒルトン小田原リゾート&スパ、今年是小田急電鉄株式会社と連携してイベントを実施した。来年度は苗木を1,200本供給し、数百人規模の生産部会を立ち上げたい。

知事

ビオトピアを核に、地域のみなさんが創意工夫によってさまざまな事業を展開する理想的な形が出来上がってきた。これをうまく活かし、ビオトピアを入口として来た人が、周辺地域に訪れる流れを生み出すことが課題である。

また、湯河原町で取り組まれている多世代共創コミュニティの形成は、未病の改善にとって非常に重要である。

横浜の若葉台団地の話だが、高齢化の進み方が早い一方で、要介護認定率がこの10年間で下がっている。この現象について現場検証に訪れたところ、答えは「コミュニティ」であった。自治会によるイベントの企画など、多世代交流の場が設けられていた。地元の方は「要介護認定率を下げようということではなく、楽しい団地にしたいという思いだった」という話で、こういうことが実はとても大事であると実感した。社会保障制度を持続可能なものにするためにも元気な人を増やしていくことが大事であり、未病コンセプトを活用し、それぞれの地域の課題として、コミュニティの充実について、ぜひアイデアを出しながら取り組んでいただきたい。

最後に、今秋に3回目の未病サミットが開催される。今回の大きなテーマは、「未病の指標化」である。前回のサミットから2年の間に、神奈川県とWHOで専門家会議を重ね、今度のサミットでは成果が発表される。「未病指標」を数値化できれば、「この取組は未病指標をこの数字からこの数字へ上げる効果がある」という表現ができることとなり、未病産業も一気に加速していくものと、期待しているところである。

今後とも県西地域の活性化がさらに前進するよう、お願いしたい。

○ 閉会